

## ◇熊谷隆一君

○議長（高橋 猛君） 次に、15番、熊谷隆一君の一般質問を許可いたします。熊谷隆一君、登壇願います。

（15番 熊谷隆一君 登壇）

○15番（熊谷隆一君） 通告に従いまして、質問をさせていただきます。時節柄といえますか、震災あるいは災害関連3本目ということでございますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。最初に、美郷町を震源とする地震の発生についてということについてお伺ひいたします。3月11日の東日本大震災は、特に東北地方の太平洋側に大きな被害をもたらしました。また、福島県の東京電力の原子力発電所の事故は、いまだ収束するめどが立っておらず、日本国内がまだ不安で覆われており、日本経済への影響は深刻であります。明治29年に発生した陸羽地震は、現在の美郷町にも甚大な被害を及ぼしたという記録がありますが、これまでの説では300年周期で発生したということをお伺ひしたことがあります。今回の東日本大震災の余震の関連でまた2カ月半後に発生するかもしれないといったような報道も一部ありましたので、その関連の考察について伺ひます。なお、地震予測については、だれしも、どんな学者でもわかる話ではなくて、この答弁によって責任を問うとかそういう関連の話ではございません。ただ、これまでの千屋断層関連のいろいろな学者あるいは研究者のいろいろな文献等があるというふうにお伺ひしておりますので、そういう見地からの質問の趣旨でございます。

一つ目として、これまでの記録から考えられることはどのように考えられるかということでございます。二つ目として、専門家の考察はどうなっているのかということでございます。また、後期総合計画にも取り上げられているということでございますけれども、天然記念物とされている千屋断層の活用についてはどのように考えているのかお伺ひいたします。それから、行政報告にも一部ありましたけれども、地震が原因なのかは不明ではありますけれども、農地等の被害対策についてはどのように考えているのかということについてお伺ひいたします。

次に、東京都港区との交流についてお伺ひいたします。ことし3月の大震災後の復興キャンペーンの言葉として「がんばろう日本」あるいは「がんばろう東北」といった言葉がのぼり旗や、あるいは看板等でよく見受けられます。それと、「きずな」という言葉が非常に登場したといひますか、脚光を浴びておまして、この言葉もよく使われております。実は、東京都港区の御田小学校と千屋小学校の交流がことしも夏に、8月にあるわけですがけれども、両校の子供が最初に対面式を体育館等で行うわけですがけれども、そのときに歌われる歌が「絆」というきずなをテーマにした歌であります。これは何年前になるかわかりませんが、当時の小学校の両校の先生

方が作詞、作曲を担当してつくられた歌で、これを聞きますと非常に感動的な内容でございまして、その歌を聞いたときから「きずな」という言葉に、私は非常に感銘を受けておりました。それが今回の大震災で「きずな」という言葉が非常に注目されてきておるなということを感じておるところであります。御田交流については、ことし35回目を迎えるということで、行政報告にもありましたとおり、7月1日に開催される名水サミットにおいても両校の子供たちが発表をする機会があるというふうなことも伺っております。この事業そのものについては、PTA主体の実行委員会が主催して続けられておるわけですけれども、35年続いたということで二世世代交流に既に入っております。子供のころ千屋に来たことあるよという保護者が二、三名毎年千屋に来ております。せっかくのこの交流を、今までは教育的な見地ということで経済的な面やいろんなことは考えてこなかったわけですけれども、大田区との交流に見られるように、将来的にやはり非常に恐れ多い話ではありますが、港区との交流を広げまして、物販や、それから人的な交流につなげていけば地域の活性化につながるものではないかなというふうに考えております。そういった取り組みをするお考えがないのかということについてお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 熊谷議員のご質問にお答えいたします。初めに、美郷町を震源とする地震の発生についてですが、明治29年に発生した陸羽地震では、マグニチュード7.2、家屋全半壊率は千屋地区で98%を超えたことが明らかになっております。その再来周期については、一説では断層活動の痕跡から3,500年周期と推定している文献もあれば、地震の記録から推定して、議員ご説明のもっと短い周期を唱える説など諸説があるようです。したがって、どの周期かということについては確定的なものがないわけですが、その周期の長短にかかわらず大切なことは、建物に耐震性を持たせることと存じますので、町では現在個人住宅の耐震診断と耐震補強工事に助成制度を設け、その取り組みを推進してきているところです。また、地震に対する対応意識も大切ですので、その意識喚起を図るため、先般、美郷町地震防災マップを全戸配布するなど、その啓発にも取り組んでいるところです。また、このたびの大震災を踏まえた断層への影響など専門家の考察につきましては、これまで町として震災対応をまずは優先させる認識からご意見をいただいております。そのため、今後旧千畑村当時から現地踏査や各種調査をしていただいている千屋断層研究グループの関係者に機会を見つけて見解をお伺いしてまいりたいと考えております。

次に、天然記念物、千屋断層の活用についてですが、議員もご指摘のとおり、美郷町総合計画

後期基本計画の中に千屋断層の保存観察環境の適正管理を推進する旨記載しておりますので、今後その推進を十分に検討してまいるとともに、その適正管理が具体となった時点では、広く防災教育や防災意識の向上などに活用していけるのではないかとこのように考えております。

次に、農地等の被害対策についてですが、町内で地震が発生した場合は、農地及び農業用施設等の被害調査並びに応急手当の初動対応業務について関係機関との役割分担のもと速やかに対応することとしております。その対応について、事業費が40万円以上の災害は国の災害復旧事業の対象になり、土地改良区または町が所有者の同意のもとで復旧事業を行うこととなります。また、この際の国の補助率は、農地災害が50%、農業用施設災害は65%となっております。いずれ農地等の被害については、災害の規模と状況に応じて関係機関の協議と役割分担のもと迅速に復旧に取り組むことが肝要ですので、そうした対応に努めてまいりたいと考えております。東京都港区との交流についてですが、議員ご承知のとおり、東京都大田区とは平成17年11月に友好都市提携並びに防災協定を締結し、交流事業を総合的に展開しております。一方、東京都港区の御田小学校と千屋小学校の交流は、お互いの地域を児童が訪問し、都市と農村の生活を体験するなど学校間の学習を中心とした有意義な交流が行われているところです。

現在の状況ですが、大田区との総合的な交流、とりわけ地元産品の物販を主体とした経済交流については、これまではイベント参加による地場産品の販売PRを主体にして取り組んできておりますが、今後は本町の産業振興に直接つながるような販路確立や受注体制の整備が経済交流の発展にはぜひとも必要との観点から、現在そうした取り組みへの移行に注力しているところです。その意味においては、町の取り組みはまさに緒についたところという認識でおります。

このような状況を踏まえ、二兎を追う者一兎をも得ずとならないように、まずは大田区との経済交流を定着させることにエネルギーと予算を優先させることとし、ご質問の御田小学校のある東京都港区との交流につきましても、御田小と千屋小の35年に及ぶきずなは十分に大切にしながらも、現在のところは物販交流の素地や可能性を実務的に探る段階として、今後の検討課題にさせていただきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「ありません。どうもありがとうございました」の声あり）よろしいですか。これで、15番、熊谷隆一君の一般質問を終わります。